（別紙様式4）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校	平成8年3月4日	瀧口　博俊	〒　802-0001 （住所）　福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 （電話）　093-533-1133
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	理事長　麻生　健	〒　820-0018 （住所）　福岡県飯塚市芳雄町3-83 （電話）　0948-25-5999

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	システムエンジニア科	平成18(2006)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	情報処理技術を中心に、システム開発について基礎から応用まで幅広く学習し、高度な知識に加え論理的思考力を身に付ける。 また、高度情報化社会に対応した国家資格や各種ベンダー資格を取得し、高いレベルのシステムエンジニアやプログラマを目指す。
学科又は専攻科の特徴 （主な教育内容、取得可能な資格　等）	主な教育内容：IT業界で高い技術力を持ったエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につける。 取得可能な資格：基本情報技術者試験、情報検定 情報活用試験、サーティファイ Javaプログラミング能力認定試験　等

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	93　単位	55 単位	76 単位	15 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数（学生実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
90 人	89 人	2 人	2%	6 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	30	人
■就職希望者数 (D)	30	人
■就職者数 (E)	30	人
■地元就職者数 (F)	9	人
■就職率 **(E/D)**	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 **(F/E)**	30	%
■卒業者に占める就職者の割合 **(E/C)**	100	%
■進学者数	0	人

■その他

就職指導内容：担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、個別相談を行うとともに、保護者等への就職説明会を実施している。

（令和　　7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

日本アイ・ビー・エムデジタルサービス（株）、（株）ラック、（株）CTCシステムマネジメント、コベルコソフトサービス（株）、TOPPANエッジITソリューション（株）、ナビオコンピュータ（株）、（株）ニシコンほか

当該学科のホームページURL

https://asojuku.ac.jp/abkc/se/

企業等と連携した実習等の実施状況

総単位数		93 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	8 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
	うち必修単位数	4 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	4 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年6月11日（水）　18:10～18:40／第2回　令和7年11月12日（水）　17:00～17:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
岩下　健一郎	北九州市産業経済局企業誘致部企業誘致課 IT産業誘致担当係長	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	①
三宅　康夫	㈱ラック　コンサルティング統括部 アカウントコンサルティングサービス部シニアコンサルタント	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	③
赤星　直樹	ギグワークス クロスアイティ㈱ 九州システム部 執行役員	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	③
矢鳴　信輔	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部　サブリーダー	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	ー
毛利　俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	ー
石田　典雅	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日（1年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
卒業研究Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	個人またはチーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行う。この科目では主に制作物の企画立案から各種設計を中心に行う。	株式会社キャッチテクノ
卒業研究Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	3年間の専門教育の集大成として、アプリケーション開発の製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。	株式会社キャッチテクノ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「学校法人麻生塾　教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　THE JOURNEY サイボウズ様から学ぶ、脆弱性診断の自動化術　　連携企業等：株式会社エーアイセキュリティラボ

期間：　2025年8月26日（火）　14:00～14:30　　対象：二田水

内容　グループウェアで有名なサイボウズ様がどのようにして脆弱性対策を効率化できたのか、生成AIを使った具体的な事例をもとに、その方法をご紹介するセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　教育とハラスメントの境界線　～アカハラとカスハラを学ぶ～　　連携企業等：吉田総合法律事務所

期間：　2025年8月20日（水）　15:00～16:30　　対象：津田

内容　アカデミックハラスメントの定義や具体的な事例を通して、指導時に注意すべきポイントを学ぶ。あわせて、カスタマーハラスメントの実態や対処法について理解を深め、ハラスメントを未然に防ぐための対策について考える。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	Claude Code活用セミナー	連携企業等：	一般社団法人 日本AI導入支援協会
期間：	2026年10月2日（金）	対象：	毛利
内容	Claude Codeの機能と活用領域、業務改善の具体例（資料作成、データ整理、自動化）、情報セキュリティと社内ガイドライン設計など、業務に活かせる実践的な内容を学べるプログラム。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	人権に関わる「差別用語」・「不快に感じさせる表現」の理解	連携企業等：	福岡県教育庁 教育振興部
期間：	2026年8月25日（火）	対象：	毛利、二田水
内容	教育現場における適切な言葉遣いや配慮について理解を深めるとともに、高校で行われている人権教育や進路指導の現状についても学ぶ。		

研修名：	非認知能力の理解と授業・学生指導への活かし方	連携企業等：	ALL HEROs合同会社
期間：	2026年10月14日（水）	対象：	矢鳴
内容	学生の価値観や生活背景が多様化する中で、人間関係の構築力、主体性、やり抜く力、自己管理能力など、「非認知能力」を育成することが教育課題となっており、学習意欲の向上や社会人としての自立を支援するうえでの理解と実践方法を学ぶ。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価
（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている

(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
徳永　由紀子	福岡県立小倉商業高等学校　校長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	高等学校関係者
野田　武志	ゲームクリエータ科3年生の保護者	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	保護者等
佐伯　京子	地域住民代表	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域住民
祐徳　辰弥	オフィスビジネス科令和元年度卒業生	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	卒業生
三宅　康夫	㈱ラック　コンサルティング統括部 アカウントコンサルティングサービス部シニアコンサルタント	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
赤星　直樹	ギグワークス クロスアイティ㈱ 九州システム部 執行役員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
有田　秀之	バリアントソフト㈱　代表取締役	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	企業等委員
河上　和弘	㈱ジーン　人事部　部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
宮原　寿光	㈱RAID　代表取締役社長	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	企業等委員
梅本　周作	㈱アジケ　代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤　洋平	㈱パソナ　YBS事業部　特定法人営業課長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
木ノ下　五郎	社会医療法人北九州病院　北九州総合病院 事務部 次長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2026/hyoka.pdf		
公表時期	令和8年10月1日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/abkc/		
公表時期	令和8年7月31日		

授業科目等の概要

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報リテラシー基礎	コンピュータにおける最低限の用語や名称を学習し、その役割を理解できるようになる。	1前	1	○			○		○		
2		○		ｿﾌﾄｳｪｱとﾊｰﾄﾞｳｪｱ	基本情報技術者試験にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ。	1前	2	○			○		○		
3		○		基礎理論Ａ	情報処理を学ぶ上で最も基本となる、基数変換・負数表現と補数・小数の表現・演算・集合論・論理演算の基礎を理解できるようになる。	1前	2	○			○		○		
4		○		基礎理論Ｂ	情報処理を学ぶ上で最も基本となる、確率・統計の基礎を理解できるようになる。	1前	2	○			○		○		
5		○		ネットワーク基礎	基本情報技術者試験にむけて、ネットワークの仕組みについて学ぶ。	1前	2	○			○			○	
6		○		ネットワーク応用	基本情報技術者試験にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ。	2後	2		○		○		○		
7		○		セキュリティと法務	基本情報技術者試験にむけて、セキュリティの知識について学ぶ。	1前	2	○			○			○	
8		○		開発と管理と戦略	基本情報技術者試験にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ。	1前	2	○			○		○		
9		○		データベースⅠ	基本情報技術者試験にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ。	1前	2	○			○		○		
10		○		データベースⅡ	テーブル設計やデータ入力を行い、プログラムからデータベースを呼び出し実践的な内容を学ぶ。	1後	2		○		○		○		
11		○		アルゴリズムＩＡ	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。アルゴリズムにおけるフローチャートを自分で作成できるようになる。	1前	2	○			○			○	
12		○		アルゴリズムＩＢ	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。探索やソートといった基本アルゴリズムを、理解する。	1前	2	○			○			○	

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13		○		アルゴリズムⅡA	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。	1後	2	○			○			○	
14		○		アルゴリズムⅡB	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。	1後	2	○			○			○	
15		○		アルゴリズムⅡC	基本情報技術者試験にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ。	1後	2	○			○			○	
16		○		情報処理基礎ⅠA	基本情報技術者試験にむけて、過去問題を中心とした対策授業。	1後	2	○			○			○	
17		○		情報処理基礎ⅠB	基本情報技術者試験にむけて、過去問題を中心とした対策授業。	1後	2	○			○			○	
18		○		情報処理基礎ⅡA	基本情報技術者試験にむけて、過去問題を中心とした対策授業。	1後	2	○			○			○	
19		○		情報処理基礎ⅡB	基本情報技術者試験にむけて、過去問題を中心とした対策授業。	1後	2	○			○		○		
20		○		情報処理応用A	応用情報技術者試験にむけて、過去問題の解説を中心とした対策授業。	2前	2	○			○			○	
21		○		情報処理応用B	応用情報技術者試験にむけて、過去問題の解説を中心とした対策授業。	2前	2	○			○			○	
22		○		情報処理応用C	応用情報技術者試験にむけて、過去問題の解説を中心とした対策授業。	2後	2	○			○			○	
23		○		システム設計Ⅰ	システム開発を題材に、設計や設計書の作成を習得する。	2前	2		○		○		○		
24		○		システム設計Ⅱ	システム開発を題材に、設計や設計書の作成を習得する。	2後	2		○		○		○		

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25		○		アプリ開発実習Ⅰ	システム設計やプログラミング言語で学んだ知識を活かして、実習を通じてプログラム開発を学ぶ授業。	2前	1			○	○		○		
26		○		アプリ開発実習Ⅱ	システム設計やプログラミング言語で学んだ知識を活かして、実習を通じてプログラム開発を学ぶ授業。	2後	2			○	○		○		
27		○		アプリ開発実習Ⅲ	システム設計やプログラミング言語で学んだ知識を活かして、実習を通じてプログラム開発を学ぶ授業。	3前	2			○	○		○		
28		○		アプリ開発実習Ⅳ	システム設計やプログラミング言語で学んだ知識を活かして、実習を通じてプログラム開発を学ぶ授業。	3前	2			○	○		○		
29	○			プログラミング基礎Ⅰ	Java言語を使い、基本文法とプログラミングの基本構造や基礎を学ぶ。	1前	2		○		○		○		
30		○		プログラミング基礎Ⅱ	Java言語を使い、基本文法とプログラミングの基本構造や基礎を学ぶ。	1前	2		○		○		○		
31		○		プログラミング言語ＩＡ	オブジェクト指向型言語のJavaを学習し、CUIベースのプログラム開発を身につける授業。	1後	2		○		○		○		
32		○		プログラミング言語ＩＢ	オブジェクト指向型言語のJavaを学習し、CUIベースのプログラム開発を身につける授業。	1後	2		○		○		○		
33		○		プログラミング言語ＩＣ	オブジェクト指向型言語のJavaを学習し、CUIベースのプログラム開発を身につける授業。	1後	2		○		○		○		
34		○		プログラミング言語ＩＤ	オブジェクト指向型言語のJavaを学習し、CUIベースのプログラム開発を身につける授業。	2前	2		○		○		○		
35	○			プログラミング言語ⅡＡ	Microsoft社のVisualStudioを使い、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ。	2前	2		○		○		○		
36		○		プログラミング言語ⅡＢ	Microsoft社のVisualStudioを使い、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ。	2前	2		○		○		○		

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
37		○		プログラミング言語ⅡC	Microsoft社のVisualStudioを使い、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ。	2後	2		○		○		○		
38		○		プログラミング言語Ⅲ	Pythonの基本的な文法を学び、マイコンを利用した簡単なアプリケーション開発技術を習得する。	2後	2		○		○		○		
39		○		Webサイト開発A	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ。	1後	2		○		○		○		
40		○		Webサイト開発B	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ。	1後	2		○		○		○		
41		○		WebプログラミングⅠA	JavaScriptやJQuery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ。	2前	2		○		○			○	
42		○		WebプログラミングⅠB	JavaScriptやJQuery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ。	2前	2		○		○			○	
43		○		WebプログラミングⅡA	PHPを使用したサーバーサイド・プログラミングの基礎を習得する。	2前	2		○		○		○		
44		○		WebプログラミングⅡB	PHPを使用したサーバーサイド・プログラミングの基礎を習得する。	2前	2		○		○		○		
45		○		WebプログラミングⅡC	PHPとDBMSを使用してWebサイトを構築する事で実践的なWebプログラミング技術を習得する。	2後	2		○		○		○		
46		○		WebプログラミングⅡD	PHPとDBMSを使用してWebサイトを構築する事で実践的なWebプログラミング技術を習得する。	2後	2		○		○		○		
47		○		生成AI演習	AI社会で活躍するための基礎知識を学ぶ。	2後	2		○		○		○		
48		○		AIプログラミング	AIを活用したプログラム開発を通じ、最新のアプリケーション開発を学ぶ。	2後	2		○		○		○		

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49		○		Linux基礎	Linuxのコマンドの仕様と使用方法を習得する。	2前	2		○		○			○	
50		○		クラウド技術	クラウドサービスを学習し、サーバーの基礎知識を習得する。	3後	2		○		○		○		
51		○		開発環境構築	EclipseやWebサーバー、DBMSなどインストールなどを体験し、開発環境の構築を学ぶ。	3前	2		○		○		○		
52		○		セキュリティ概論	ブロックチェーン技術などを使い、最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	3前	2	○			○		○		
53		○		Webシステム開発ⅠA	Java(JSP/Servlet）を使ったWebシステムの開発を学ぶ。	3前	2		○		○			○	
54		○		Webシステム開発ⅠB	Java(JSP/Servlet）を使ったWebシステムの開発を学ぶ。	3前	2		○		○			○	
55		○		Webシステム開発ⅡA	オリジナルのシステムを設計し、Java（JSP/Servlet）を使用したWebシステム開発を行う。	3後	2		○		○			○	
56		○		Webシステム開発ⅡB	オリジナルのシステムを設計し、Java（JSP/Servlet）を使用したWebシステム開発を行う。	3後	2		○		○			○	
57		○		ｵﾌｨｽｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ演習Ⅰ	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ。	1前	2		○		○			○	
58		○		ｵﾌｨｽｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ演習Ⅱ	Excelの関数やグラフ機能など、知識と技術を学びMOS Excel取得を目指す。	1後	2		○		○			○	
59		○		ｵﾌｨｽｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ演習Ⅲ	ExcelVBAについて学ぶ。	3前	2		○		○			○	
60		○		ｵﾌｨｽｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ演習Ⅳ	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ。	3後	2		○		○			○	

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
61		○		デジタルツール演習	Webアプリケーションを中心に情報共有の方法を学ぶ。	3前	2		○		○		○		
62		○		ビジネスコミュニケーション	あいさつや話し方、ミーティングや会議のやり方を学び社会人としての基礎教養を身につける。	2後	2		○		○		○		
63		○		プレゼンテーション演習	PowerPointやWebプレゼンツールを利用しながら、人前で発表をする技術を学ぶ。	3後	2		○		○		○		
64		○		一般教養Ⅰ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	1後	1	○			○			○	
65		○		一般教養Ⅱ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	2前	1	○			○			○	
66		○		一般教養Ⅲ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	2後	1	○			○			○	
67		○		一般教養Ⅳ	入社試験に備えた一般教養を学ぶ。	3前	1	○			○			○	
68		○		ビジネス実務Ⅰ	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ。	1後	1	○			○			○	
69		○		ビジネス実務Ⅱ	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ。	3後	1	○			○			○	
70		○		文章表現Ⅰ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ。	2前	1	○			○			○	
71		○		文章表現Ⅱ	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ。	2後	1	○			○			○	
72		○		GCBⅠ	グローバルシチズンベーシックⅠ（感謝心と思いやり）について学ぶ。	1前	1	○			○		○		

	（工業専門課程システムエンジニア科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
73		○		GCBⅡ	グローバルシチズンベーシックⅡ（志をたてる）について学ぶ。	2前	1	○			○		○		
74		○		キャリアデザインⅠ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う。	2後	2	○			○		○		
75		○		キャリアデザインⅡ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う。	3前	2	○			○		○		
76	○			卒業研究Ⅰ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ。	3後	1			○	○		○	○	○
77	○			卒業研究Ⅱ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ。	3後	3			○	○		○	○	○
78		○		卒業研究Ⅲ	3年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ。	3後	4			○	○		○	○	○
合計					78 科目		146 単位								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ・就業年限以上在籍していること ・必修科目と選択科目から62単位以上を修得していること ・必修科目の単位を修得していること	1学年の学期区分	2 期
履修方法：学則に定める教育課程に基づき、必修科目と選択科目を履修する。	1学期の授業期間	16 週